

有明工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	住環境計画
科目基礎情報						
科目番号	0007		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	創造工学科(建築コース)		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	前期:1		
教科書/教材	「コンパクト建築設計資料集成」；日本建築学会編／丸善 適宜プリントを配付する					
担当教員	藤原 ひとみ					
到達目標						
1. 住まいが、それぞれの地域の自然条件、人為的条件、歴史、風土等により形成されてきたことを説明できる。 2. 住まいと人の生活の仕方・様式等の関係を理解し、現代の住まいの成り立ちや機能を説明できる。 3. 住まいのインテリアの計画から、モジュールやヒューマンスケール、基本的な家具や住設備機器などの寸法を理解し、説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安	
評価項目1	住まいが、それぞれの地域の自然条件、人為的条件、歴史、風土等により形成されてきたことを十分説明できる。		住まいが、それぞれの地域の自然条件、人為的条件、歴史、風土等により形成されてきたことを説明できる。		住まいが、それぞれの地域の自然条件、人為的条件、歴史、風土等により形成されてきたことを説明できない。	
評価項目2	住まいと人の生活の仕方・様式等の関係を理解し、現代の住まいの成り立ちや機能を十分説明できる。		住まいと人の生活の仕方・様式等の関係を理解し、現代の住まいの成り立ちや機能を説明できる。		住まいと人の生活の仕方・様式等の関係を理解し、現代の住まいの成り立ちや機能を説明できない。	
評価項目3	モジュールやヒューマンスケール、基本的な家具や住設備機器などの寸法を理解し十分に説明できる。		モジュールやヒューマンスケール、基本的な家具や住設備機器などの寸法を理解しに説明できる。		モジュールやヒューマンスケール、基本的な家具や住設備機器などの寸法を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B-1						
教育方法等						
概要	人々はあるところに居を構え、生活を営む。その地域は自然条件や歴史あるいは人為的条件があいまって風土あるいは伝統なるものを形成し、その住まいや住まい方に大きく影響する。しかも、そこでの暮らしは、家族、向こう三軒両隣や町内会などの単位あるいは自治体全体に広がる単位など様々な人々の集団の中で営まれるため、様々な段階のコミュニケーションと重なりながら住文化を育んでいる。 したがって、住宅を計画する際には、単にモノづくり的に発想するのではなく、地域や家族の住文化を育む住まいを意識することが重要である。主体である家族ばかりでなく家族を取り巻く人々や、住宅ばかりでなく地域までを含めた空間、これらを総称して住環境と定義する。 この住環境の視点から住まいを考えることが授業の目標であり、具体的には、住まいと生活の関わり方、住まいの機能の計画、集合住宅の計画を学び、理解する。 レポート及び定期試験で評価する。					
授業の進め方・方法	講義中心					
注意点	特別な建築の知識はそれほど必要としない。授業の中で身につければ十分である。むしろ、社会や国語など人文系の教科目の幅広い知識が役に立つ。建築の専門を学ぶ一方で、人々の生活を見つめ直して幅広い視野を持つことが重要であり、でき得る限りの予習をすること。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	住まいと生活-住文化を考える (1)		(1) 世界の住まいを学習する。グローバルな視点に立つて、自然条件や人為的条件の違いによって住まいの作りようが異なることを説明できる。	
		2週	住まいと生活-住文化を考える (2)		(2) 日本の住まいの歴史を概観する。日本の住まいが古代から近代まで歴史的にどのように変化・発展してきたのかを説明できる。	
		3週	住まいと生活-住文化を考える (3)		(3) 家族構成の変化と住要求について建築の対処方法を考える。ライフサイクルの各ステージにおいて住要求が変化すること、その変化に対処するためにこれまでに考えられた方法を説明できる。	
		4週	住まいと生活-住文化を考える (4)		(4) プライバシーとコミュニケーションから生活空間を考え住まいのなかのゾーニングや空間配置を説明できる。	
		5週	住まいと生活-住文化を考える (5)		(5) 住まいに求められる機能の変遷と分化を学習し説明できる。	
		6週	住まいと生活-住文化を考える (6)		(6) 住様式を考える。現代の住様式を説明できる。	
		7週	中間試験		到達目標達成度の確認	
		8週	住まいの機能と計画-現代の住まい・空間を考える (1)		(1) 接客空間を考える。明治以降における接客空間の歴史的変遷を学習し、戦後否定された接客空間が今日でも設けられ、現代的意義を問い直されていることを説明できる。	
	2ndQ	9週	住まいの機能と計画-現代の住まい・空間を考える (2)		(2) 公室空間とその配置構成を学習する。リビング・ダイニング・キッチンの配置の組み合わせの利点と欠点を説明できる。	
		10週	モジュールやヒューマンスケール		モジュールやヒューマンスケールなどの基本的寸法体系を学び説明できる。	
		11週	インテリア・家事作業の空間を考える。		諸室のインテリアや水回りなど設備空間(便所、浴室、脱衣室など)や家事作業空間を学習し、説明できる。	
		12週	優れた住宅建築を学習する。		住宅建築は小規模住宅ほど機能的追求が明確である。ここでは戦後以降を中心とした近代住居の構成理論を説明できる。	

		13週	集合住宅を考える	集まって住むことの意味とそのための計画理論を学習し説明できる。
		14週	これからの住まい	これから求められる新しい住まいについて展望し、説明できる。
		15週	期末試験	期末試験
		16週	総括	総括

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	モジュールについて説明できる。	4	前10
				建築設計に関わる基本的な家具をはじめとする住設備機器などの寸法を知っている。	4	前11
				居住系施設(例えば、独立住宅、集合住宅など)の計画について説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0